

国語の授業

詩(「ひばりのす」)の授業記録(その 1)

長野県・南箕輪小学校・四年(男 18 人、女 17 人)1987 年 3 月 6 日

授業者 戸田 淳子

ひばりのす	木下夕爾
1 ひばりのす	
2 みつけた	
3 まだたれも知らない	
4 あそこだ	
5 水車小屋のわき	
6 しんりょうしょの赤い屋根のみえる	
7 あのむぎばただ	
8 小さいたまごが	
9 五つならんでる	
10 まだたれにもいわない	
(『国語 3 年上』光村図書 1980)	

記録中の傍線部は、学級で作り出された主な問題である。問題は、問診問題、対立問題の構成部分(選択肢)、反論などである。問診問題は、教師または子どもが子どもたちから答えを聞き出す問題である。対立問題は、問診問題が聞き出した答えに対立がある場合、それを構成要素(選択肢)とした問題である。

太字の単語は、問題作りの際あるいは対立問題を解決する際に子どもたちが文中から抽出した言葉である。

[1] 問題作り

(1) 疑問、質問、意見をつぶやく

T：みんなは、もう問題を作ってあると思うけれども、どんどん変えてって結構だからね。分からない言葉や問題を考えながら、読んでいって下さいね。

(T：「ひばりのす」の詩を板書し始める)(子どもたちは、読みながら自分が思っていることを口々につぶやく)

真衣：先生、行番号を書くのも忘れないでね。

光：「たれ」って間違えてる。

正和：「赤い」って目立つね。

謙児：「しんりょうしょって何？

彰子：1 行と 2 行、行が違うの？

正和：0 (ゼロ) 行。

T：0 行なんてあるわけないんじゃないの？おかしいな。

康太：分からない言葉が、あるんだけど「しんりょうしょ」って何？

T：「しん」って？

真衣：「しんりょうしょ」の「しん」って「診察」の「診」だよ。

T：よく知ってるね。

真衣：お医者さんに行った時、「診察室」ってあるんだよ。

T：診察の「診」って、どういう意味だか、分かる？

正和：「診る」

T：そう。

彰子：観察する。

光：診療所の「療」ってね。治療の「療」って感じがするよ。

T：「治療」の「治」は何？

Cs：治す。

T：だから？

正和：ああ。だから分かった。「診療所」っていったら、お医者さんのいる病院。

真衣：じゃなんで「病院」って書かないの？

C：うん、そうだよ。おかしいよ。

大場：「診療所」は「病院」って書いてないでしょ。だからね、臨時の所じゃないかな？

T：ああ、本当の病院じゃなくって臨時。

大毅：山の奥にあってね、お医者さんが一週間に一度くらい来て、みんなを診てあげるんだよ。

真衣：よく知ってるね。

T：何か本で見た？

美千代：お医者さんがいない時、どうなるの？

T：お医者さんがいない時、そうね。看護婦さんがいる。

智弘：それでも休みの時、お医者さんもない時どうなるの？

T：そういう時、看護婦さん達はいてね。お医者さんは一週間に何回か通って来たりするの。

C：2～3 回。

真衣：うんとすごい病気の時、困るね。

T：うん、そういう時も、あるだろうね。

最上：じゃ、うんとちっちゃい村なんだね。

和樹：麦畑が一面に広がっているんだね。

美千代：家なんて、余りないんだよ。

T：そうね。だから、ここら辺のように、こんなにお家がたくさんあって、お店があるのでなくて、周りは麦畑があったり～。

C：何か、木があって、自然がある所なんだよ。

T：うん、そういう所なんだろうね。さっき誰か言っていた「たれ」っていうの、先生が間違っていたって言っていたけど、配ってあるプリントにも「たれ」って書いてあるでしょ。「たれ」って「だれ」っていうことなの。

彰子：同じなんじゃないの。

由美子：「たれ」って書いた方が、この文章に合っているよ。

真衣：ぴったりしてるよ。

C：昔みたい。

T：そうだね。昔は「だれ」を「たれ」って使ったことがあったよ。

T：これの方がいい感じがする。詩の中に溶け合ってる。「まだだれも知らない」って思ってください。

(2) 問題作り

1. 問題：二連は「3 箇所も場所が書いてあって分かんなくなっちゃったよ」

歩：私ね。まだ分からないことあるんだけど、2 連はね、「水車小屋のわき」って言うただけで、分かると思うんだけど、3 箇所も場所が書いてあって分かんなくなっちゃったよ。

T：一杯場所が書いてあって、何だか分かんない？

2. 問題：「この僕はどこにいるのかな？」

光：それ聞いて問題出来たんだけど、この僕はどこにいるのかな？

T：どうしてそんな問題作ったの？

光：1 連と 2 連は違うようなの。

T：ああ！ 何だか 2 連の方が？

光：遠くにいるようなの。

真衣：時間が違うんじゃない。

T：ああ、じゃこれ黒板に書くから、どっかで使おうね。

(板書)	前	今
------	---	---

3. 問題：「この僕は、今ひばりのすを見つけたのか？前にみつけちゃったのか？何か1連と2連、時間が違うようだから。」「僕は、1連がすにいてね。2連がすになくてね。3連がすにいるの。」
小池：まだあるけど、この僕は、今ひばりのすを見つけたのか？前にみつけちゃったのか？
C：どうしてそういう問題作ったの？
小池：何か1連と2連、時間が違うようだから。
謙児：僕も(1連と2連)時間が違うと思うけど、0(ゼロ)行で前の日ね。一度行ってひばりのす、みつけてね。それで次の日になってね。1連でね。
T：家に一度戻ってくるの？
謙児：家に帰ってね。次の日に思い出して、どんどん行って、2連でどんどん見えてきたの。
T　そうするとどうなの？1連の時は、すにいるの、いないの？
謙児：いない。
T：いないで、遠くから見ているの？
謙児：そう。
彰子：みんな歩いているんだ。
T：3連は？
謙児：3連はもう着いたの。
T：ああ、そういうふうに考えたの。
C：私、違うよ。
勝　僕は、1連がすにいてね。2連がすになくてね。3連がすにいるの。
彰子：それが本当のだよ。だって、最初に「す」にいたように感じてね。2連は遠く離れて「あそこだ」って、言ってね。最後にまた戻って来たの。
T：これは覚えておいてね。今、問題を出し合っているからね。
C：うん。分かった。

4. 問題：「ふとみつけた」のか、「みつけるぞー、みつけるぞうー」と、思ってみつけたのか、どっちなのかな？
里美：私、小池君のを聞いていて問題が出来たんだけど～。
T：えーと、小池君のは何だっけね。今みつけたのか、前にみつけたのかというのね。
里美：「みつけた」って書いてあるでしょ。「ふとみつけた」のか、「みつけるぞうー、みつけるぞうー」と、思ってみつけたのか、どっちなのかな。
T：(板書しながら)「ふとみつけた」
Cs：たまたまみつけた。
Cs：偶然
T：偶然みつけたのか。
Cs：「みつけるぞー　みつけるぞー」「ひばりのすみつけるぞー」

板書 ①ふと　ぐうぜん　たまたま ②みつけるぞー

T：「みつけるぞー」と見つけたのか。これもいい問題ですね。これも覚えといて下さいね。

5. 問題：「普通だったら、3行から8行へ繋げる」のに、2連で「急に4行から場所のことが書いてあって、おかしい」
真衣：私、まだ問題があるんだけどね、普通だったら、3行から8行へ繋げる。「たまご」とか「す」のことだから、繋げるはずなのに、急に4行から場所のことが書いてあって、おかしい。
T：ああ、2連は場所のことなのに急に。ああ、あなたは、3行と8行、繋げちゃっていいと思う。

彰子：ねー、読んでみるね。(3行と8行を繋げて、1・2・3・8・9・10と読む)
T：と、言っちゃっていい？
美根：1連と3連は、ひばりのすとか卵のことで一緒にしていいんじゃないかな。
T：いい？
美千代：だけどね。私は一緒にしちゃいけないと思うけど、3行は「まだたれも」って書いてあるし、10行は「まだたれにも」って言葉が違ってるとよ。
奈美：1連と3連は同じにしちゃいけないと思う。1連には「まだたれも知らない」って書いてあるけど、3連には「まだたれにもいわない」って書いてあるから違うんじゃない。
彰子：言葉が違うよ。
下島：僕もそういう問題作ってたよ。
彰子：「にも～ない」っていうと、絶対っていうような強い決心がある気がする。
謙児：僕もそうだけど、「まだ」って言うと、これからもまだまだ誰にも言わないぞというような感じ。
T：ちょっと待って、絶対言わない？
彰子：そう、もう口が裂けても言わないという感じ。

6.問題：『「たれにもいわない』というのは、言おうとしているのか、絶対言わないのか、どっちかな？」
矢野：僕違う。謙児君のを聞いていて問題出来たんだけど「たれにもいわない」というのは、言おうとしているのか、絶対言わないのか、どっちかな？
T：あなたはどっちなの？
矢野：「まだたれにもいわない」と言うのは、今は言わなくても、後で言うという感じ。
T：ああ、絶対これからも言わないのか？
柳澤：今の時点で言わない。「まだ」というのは、今は隠しといて、言わないんだけど、最後はうちあけちゃうということなんだよ。
最上：僕も、そうなんだけど、今は言わないでおくんだけど、後でこのことは切れちゃって言っちゃうの。
T：「まだ」っていうのは、どういう時に使う？
平原：僕、例えがあるんだけど、「まだケーキを食べない」って言うと、今は食べないけれど、後で食べる時に使う。
有賀：後の時に使う。
勝：「まだ勉強しないの」って言うこともあるよ。
T：「まだ勉強しないの」っていうのは「まだしないよ」「まだ勉強しないよ」って言ったら？
C：「これからするんだよ。」
C：「この後でやるんだもん」
C：「その後でするんだもん」
彰子：「後、もう5分待ってね。」

7. 問題：今は、「言いたくない」のか、「言いたいのを我慢しているのか」
T：だから「まだたれにもいわない」っていうのは、少なくとも、今は言わない。だけど～。
彰子：いずれは、うちあけちゃう。
T：そういう感じがするというのね。
久代：私は「たれにも」の「にも」っていうと絶対言わないということだから、決心が。
T：あ～、言いたいのか？
久代：私は言いたくないと思う。
T：どういうこと？何で？

久代：小さいたまごを「みつけた」って言うと、その最初「みつけた」という夢みたいのが、壊れちゃうとね、自分はいやだという気がするから、言いたく無いと思う。

夏樹：久代さんの言っていることと、僕たちの意味が違うと思うけど、僕達は言いたいけど、我慢している。

T：言いたくて、言いたくて、たまんないけど、我慢しているのね。久代さんは？

勝：言いたくなくて、後で言うという感じ。

T：言いたく無い。夢が壊れちゃうから、言いたくない。だから、我慢している。

最上：だったら、久代さんのだったら、「もう」とか「絶対」言わないという言葉を使えばいい。

T：そういう事、覚えておいて。これ二つとも、今は言わないということに対しては同じだよ。だけど、言いたくて言いたくてたまんないのに我慢しているのか、あるいは言いたく無いから言わないのかは、後で分かると思うから。少なくとも、今は言わないのね。

板書 絶対
①言いたくて がまん
②言いたくない。

8. 問題：『まだたれにもいわない』って、一体いつからそんなこと思っていたんだろう」か

T：ちょっとね「まだたれにもいわない」って、一体いつからそんなこと思っていたんだろうね。初めから言いたく無いと思っているのかね。

真衣：今日でしょ。

C：でも 10 行は絶対違うよ。

T：そう「まだたれにもいわない」なんて、こんな所で言いたくないなんて思うわけないよね。

C：もう言っちゃっているよ。

T：決ってみようか？

①意思表示の仕方をどうするか(1)

琴絵：待って。1 連の 3 行とか 4 行とかの間があるでしょ。そういう所どうするの？

T：(1 連と 2 連の間を指して) ああ、こんな所で言いたくなくなるなんてことあるのかね。

Cs：(口々に) あるよ。ないよ。

T：じゃ、番号入れておく？(※ 板書で 3 にダッシュを付ける)

彰子：一応ね。

最上：7 行と 8 行のとも。

T：7 行も？じゃ、間に 7 と書いておくね。(7 にダッシュを付ける)

T：さあ、みんな考えて。この僕は一体いつから「まだたれにもいわない」って思ったのかね。

彰子：待って、ちょっと考えてみるから。

T：うん。

CS：うーん。(しばらく思考する)

T：いい？

最上：「ダッシュ」はどうするの？

T：ダッシュ？

最上：ペロ(舌)を出すよ(ダッシュの代わりに出す)

T：(例えば 3 のダッシュの場合)3 ペロってこうやって出す？じゃ、ワン、ツー、スリー。

小池：僕 0 (ゼロ)

T：あっ、0 (ゼロ行) の人いるの？

(0 行 1 人)

T：1 の人？

T：2・3 の人？

C：絶対にないね。

T：3(ダッシュ付)

C：エーッ。

美千代：3 ダッシュは 3 に入るんじゃないの？

真衣：入らん。誰も知らないって思ったもので、言わないって思った。

C：じゃ、入るじゃん。

T：4 番。2 人。

C：え〜。

T：(5 番を指して) こんな所で言わないぞと思うの？

最上：おかしいよ。言っている途中だよ。

T：6、ここはいないの？

最上：先生はどこ？ どこかに入って？

T：7。誰もいないの？

C：じゃ、先生ー

T：先生を 7 に入れちゃうの？

C：うん。

T：じゃ「先生」って書いておくよ。

T：7(ダッシュ付き)

C：え〜。7 に入るよ。

T：8

大場：8・9 の主に 8。

T：ああ、8・9 なんだけど、主に 8 という意味 9 人

C：主に 9 人

T：はい、10ー

C：いないよ。

美千代：一連はみな一緒にしていいと思う。だって、ひばりのすをみつけたということにまとめてもいいんじゃない(※1・2・3 行は一緒にしてよい)。

T：うん。みつけた時に、言いたく無くなったということで、一緒にしちゃいけない？

大場：いいよ。

真衣：私はいけない。「まだ知らない」と思ったもので、言いたく無くなった。(真衣は 3 ダッシュ説)

T：まだ、知らないと思ったもので言いたくなくなった。1 連は 2 と 3 とやっとくね。(分けておく)

平原：僕 4 行と 5 行の人、おかしいと思うけどね。あそこだと場所を指し示している途中で、言いたくなくなるなんて、おかしい。

小松：「あそこだ」というのは、「むぎばただ」という所に通じているから、何かそこで(「あそこだ」で) 切っちゃおかしい。

T：おお、通じている？

幸恵：私も通じていると思うけど、7 行の「あのむぎばただ」というのは「麦畑」には、ひばりのすがあるんだから、切っちゃいけないんじゃないかな。だから 4 行と別々にしちゃいけないと思う。

②「ひばりの巣」についての説明

T：麦畑にひばりのすがあるのをよく知ってるね。幸恵ちゃん。

C：あたし、知らなかった。

T：知らなかった？

智弘：ぼくんちのおばあちゃんの家に、つばめのすがあるんだよね。つばめのすが屋根の裏にあるからそこかなと思った。

T：ひばりのすはね。麦畑とかね、原っぱとかね、草むらとかね。こういうふうにあるんだよ。

真衣・大場：めずらしいね。

T：そういう所にあるんだよ。ひばりは、下りてくる時、ひばりのすの

所へ下りてこないの。すから離れた所に下りてくるの。飛び立つ時もすから離れて、そういう所へ行ってから、パッと飛び立つんだよ。だから、ひばりのすは麦畑の中にあるんだよ。

歩：だから、どうせ4行と5行で言うんだったら、7行で言った方がいい。

T：うん、7行で言いたくなかったというふうにまとめていい？
(2連説の人は7行にまとめる)歩ちゃんがさっき2連は、場所を一杯言っていて、何だかよく分からないって言っていたけど、これ、一つのひばりのすの場所のことについて説明しているんだということで、歩ちゃんいいね。

勝：まだ同じ所があるんだけど、7(ダッシュ)は7行に入っていると思う。

最上：えー、入らないよ。「あのむぎばただ」という所と「小さいたまごが」っていう間に思ったことだから7行に入れちゃ駄目。

彰子：だけど、3(ダッシュ)でも3に入るんだから、7だって入るよ。

最上：駄目なの。
T：いや、一応7(ダッシュ)で言いたく無くなるかもしれないから、一応調べてみようね。

③意思表示の仕方をどうするか(2)
(言いたい・言いたくないの強さを線図で示す)

かおり：それじゃ分からないから、絵にかいてみればいいんじゃないかな。

Cs：どうということなの？
かおり：言いたくなくなった強さを絵に描いてみればいいんじゃないかな。

Cs：どうということなの？
かおり：言いたくなくなった強さを絵に描いてみればいいんじゃないかな。言いたく無い、言いたく無いという強さが、どんどん高まってくるでしょ。それを絵に描いた方が分かりやすいんじゃないかな。

T：ああ、1連を言いたいのか、2連は言いたいのが大きくなるのか、小さくなるのか、こういうふうに言いたいって……。

彰子：変化を調べるみたいにする。
最上：僕、あるんだけど1連から2連、2連から3連へ段々小さくなる。

T：ああ、言いたい気持ちが？言いたいなあ、言いたいなあ。1連が言いたくて、2連が言いたいのが段々小さくなって、3連が言いたく

無くなったということ？(図①)

C：合うじゃん。
T：合うじゃん。

大場：僕は、1・2連でこういうふうにでかくなってね。
T：何が？言いたいという気持ちが？

大場：言いたいという気持ちが1連より2連の方がでかくなっていて、それで、バンと2連で切れちゃう。(図②)

T：言いたく無いということ。それで3連で～
大場：それで、3連で言いたくないというのがでかくなるの。

T：こういうこと？言いたい、言いたい、言いたくないって、こういうこと？

大場：そうそう。
最上：僕、それだったらおかしいと思うけど、きっかけがないと思うから、1連から2連へ小さくなっていて、3連で「いわない」っていうのが大きくなっていった。

T：ああ、こういう事を段々段々言いたくなくなってきた、それでまた、段々？

最上：言わないというのが大きくなるの。(図③)

T：こういうこと？1連が言いたくて、段々言いたくなくなると、大きくなる。これだと自然だと。

最上：そうそう。
T：これならきっかけがなくてもいい。大場君のだと、きっかけが無いとおかしいというのね。なるほど。

小池：僕は、真っ直ぐな線。同じ。(図④)
T：ああ、初めっから、言いたくないという意見だからね。なるほど。

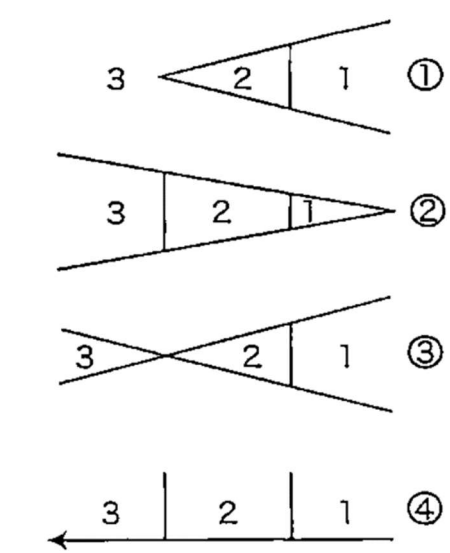
有賀：だから、0(ゼロ)行と言っていた。(小池は0行説)
T：だから0行と言っていたんだね。

最上：じゃ、どれかな。
T：ちょっと、2連のことが、問題だと思うの。この絵(図①)は、2連が段々言いたくなくなるのか、(図②のように)言いたくって、こ

ういうふうに、言いたいっていうふうに言いたくなるのかが2連の内容になるのか。最上ちゃんの(図③)は、段々言いたくなくなるというのが、2連の内容だというのね。

最上：そう！
T：この2連の事、後でやるから覚えておいてね。

板書
「ひばりのす」のことを言いたい気持ちの変化を示す線図(×は言いたくない)



9：問題：「2連は、なぜくどいのか。」
T：(読み)「あそこだ/水車小屋のわき/しんりょうしょの赤い屋根の

みえる/あのむぎばただ」
真衣：何か2連くどくない？

T：さっき、あなたが言ったように、1つの場所、言ってるんだよね。
彰子：だってね。「あそこだ。しかも、水車小屋のわき。しかも、しん

りょうしょの赤い屋根のみえる。あのむぎばただ。」ってくどすぎるよ。

勝：僕は、何でもくどく聞こえるかというのね。①言いたくて、言いたくてたまんないの。でも我慢してるの。

T：何でそんなにくどく言うの？
勝：みつけたということが、余りにうれしかったからね。うれしいと

いう感じで(くどく言った。)
T：ほう、見つけたことがうれしいから、くどく言ってるの？

美根：自分に確かめているんだね。
T：ああ、自分に。は～、うれしくてうれしくてたまんないから、確か

めるために、くどく言ってる。
矢野：でも、僕は、②友達に教えるためにくどく言っている。

彰子：でも、友達なんて書いてないよ。
T：でも友達なんて書いてないよね。教えるためにそんなにくどく言

うの？
謙児：③番が出来たんだけど、③この場所を覚えておくためだと思う。

(T：忘れないために。) 何でかというのと、「赤い屋根のみえる」って、書いてあるでしょ。「赤い」っていうのは、うんと目立つ色だから、

ここを目印にしておけばいいんじゃないかな。

T：目印みたいを書いてあるから、何か忘れないために「あそこだ水車小屋のわき」っていつているの？

里美：③に反対なんだけど、みつたのは、うれしいでしょ。忘れっこないのに、忘れないためになんていうと、みつけたことが弱くなっちゃうよ。

彰子：③は①に入ると思うけど、みつけたことが、うれしくてたまんないからこそ、忘れないために確かめちゃうんじゃないかな。

T：ああ、じゃ①に入れていい？

歩：うんとうれしいと、本当は忘れないんだけど、それを残しておきたいという気持ちで忘れないためと言っている。

T：だから、忘れちゃうというんだったら、いけないけど、本当は忘れちゃうんじゃないのね。だけど、うれしいという事を、うんと自分にいうというか、確かめている。(だから③は①に入れてよい。)

最上：だけど、まだ①に③を入れてはいけない。①の方が発見した人が、うんとうれしいもんで確かめて「あそこだ水車小屋のわき」って言っちゃうけど、③は自分が忘れないという意味でなくても忘れないっていうんだったらね。きっかけが違うから③に入れてはいけない。

正和：でも、同じような意味だから入れてもいい。

T：謙児くん。(※③の意見を出した子) どう？

謙児：僕、入れていい。うれしいから忘れないから。

T：そう。一応頭におきながらも、③を①に入れて、①と②にまとめてみてもいい？

C：うん。

T：①確かめるために言っているのか。忘れないために、くどくいつているのか。②は～

美千代：ちょっと言い直せるんだけど、①は、自分が自分に言っているんだけど、②は友達とか相手がいるんだよ。

T：板書(※①②の2つにまとめる)

①確かめる：自分が自分に
②教える：友達・相手に

10. 対立問題の支持調べ

T：決とうるか？

小池：何か僕、0行(説) なんだけど、おかしくなっちゃった。0行だと後が想像になっちゃうような気がする。

T：だから、自分の意見は0行説はやめると言ってるのね。初めから言いたくないという説はやめるのね。それだと、前の日に行っといて(1・2・3 連は) 全部想像になっちゃうから切りたいのね。じゃ、どこに入るの？(0行～10行の中で何番か？)

小池：3行。(※0行説は切る)

T：3行に入れとく？ 3行は4人になるのね。決とってみるね。

- ①：くどく言うのは、うれしくてたまんないから自分に確かめるために言っているのか。
- ②：友達に教えるために、くどく言っているのか。

T：はい くどく言っているのは、

- ①自分に確かめる説 34人
- ②友達に教える説 1人

T：②は1人だから、違うかもしれないね。

11.問題：① 自分で、すの場所知っているのに、2連でくどくいうの
おかしい ② どうして2連で友達に教えておいて、 3連の10行

で、「まだたれにもいわない」なんておかしい

真衣：私①なんだけど、自分で、すの場所知っているのに、2連でくどくいうのおかしいと思う。(真衣は①説だが、自分の意見もおかしくなったと言っている。)

下島：僕、②に反対なんだけど、どうして2連で友達に教えておいて、3連の10行で、「まだたれにもいわない」なんておかしい。

T：あなたは、何番なの？

下島：僕①。

彰子：だけど、変わっているかもしれないよ。きっかけがあるかもしれないよ。

T：もしかしたら、きっかけがあるかもしれないね。

最上：だけど、きっかけなんて無いよ。

12.問題：1連の「ひばりのすみつけた」と言う時、誰かに言いたいのかな

T：2連は、今誰に言っているかの問題になったけど、1連からのつながりで目をつけてみたい。すくなくとも、1連の「ひばりのすみつけた」と言う時、誰かに言いたい意見の人が多いんだけど、言いたいのかな。

真衣：隠したい人？

板書

- ①言いたくない・かくしたい
- ②言いたい

T：隠したい？

最上：だって、みつけたのが、うれしいもんで、こりゃもう自分のもんだって、隠したい。

彰子：うれしいからこそ、言いたいんだよ。

13.問題：偶然みつけた方がうれしいのか、「みつけるぞ」と思ってみつけた方がうれしいのか

T：ちょっと、みんなは、うれしいうれしいと言うけど、うれしいなんてこと、1連に書いてある？「ひばりのすみつけた まだたれもしらない」ただ、それだけのことだよ。

彰子：だけど、書いてあるんじゃないかな。

正和：僕調べたいことがあるんだけど「みつけた」という内容調べればいいと思う。ね、そこに問題書いてあるでしょ。みつけるぞ！のうれしさと、偶然みつけたのうれしさが違うから、それを調べればいいと思う。

T：偶然みつけた方がうれしいのか、「みつけるぞ」と思ってみつけた方がうれしいのか、この問題、さっき里美さんが出してくれたね。どちらの方がうれしいか調べてみてもいい？

C：いいよ。

T：どちらの方がうれしい？

美樹：「ふと」の方だと思う。お散歩していて麦畑の方を向いたら、ひばりのすがあって、「みつけた！」と言った。

T：だから、お散歩していて、「みつけた」の方がうれしいというのね。

正和：だったら、うれしさが弱くなっちゃうよ。

彰子：それだったら、「ひばりのすあった」と言えばいい。

最上：だって「みつけよう」って思っていたから「みつけた」って言っているんだ。

由美子：私、「みつけるぞ」と思っていたという方だけど、「みつけた」というのは、発見という喜びがあるから、初めの状態が「みつけるぞ」と思っていなければ、発見みたいなことにならないから、やっぱり「みつけるぞ」と思ってないと「みつけた」にはならないと思う。

奈美：「みつけた」と「みつめました」と比べてみると、何か手を広げて跳び上がったちゃうほどだから(C：「みつけるぞー」) みつけようと思っていた方がうれしい。

小池：「水車小屋のわき」ってあるでしょ。そこは「みつけるぞ」って言わなきゃ、みつけれない場所だから。

C：わきはみにくい所だよ。

T：見にくい場所だから「みつけるぞ」って思っていたの？ちょっと「わき」っていうのを後でやってみたい。
(※ 「わき」の意味を取り違えていることから混乱している。しかし、今は問題が違うので後でやることにする。)

14. 問題：偶然みつけて、「まだたれも知らない」と言い切れるのか
和樹：僕も「みつけるぞ」っていう方だと思うけど、偶然みつけたんだったら、偶然みつけて、「まだたれも知らない」なんて言い切れないんじゃないかな。

T：和樹君、すごいこと、言ってるんだよ。「まだたれも知らない」って言い切るには、その前の状態に何かあるんだと。だから、一生懸命「みつけよう、 みつけよう」と思っていたからこそ「まだたれも知らない」って言い切れるというのだよ。これ、何で「まだたれも知らない」って言い切れるんだろうね。

光：ただ、この僕が「まだたれも知らない」って思っているだけかもしれないよ。

高坂：それだったら「知らないかなあ」って書けばいい。

平原：僕は、「みつけるぞーみつけるぞー」って汗水たらして、やっとあったから、もうこれは、誰も知らないって思ったと思う。

美千代：草をかき分けて、一生懸命やっとみつかったのに、他の人が知っているわけないと思ったんだよ。

T：だから誰も知らないって言い切れるの。

小池：僕、調べればいいところあるけれど、0行を調べれば分かってくと思う。

T：ああ、つまりここに(0行)どんなお話があって、「たれも知らない」ってこの人が、言い切れるような、その前のお話があるかなーってことなのね。

美千代：さっき、平原君が前のこと言ってたよ。

15. 問題：「たれもしらない」の「たれ」は、誰のことか。みつけたこの友達のことだ。

T：言ってたね。ねー「たれも知らない」の「たれ」って誰のこと言ってるの？

勇氣：僕はクラスの友達。

真衣：村の人全部、僕を抜かして村の人全部。

歩：私、反対なんだけど、僕が村の人全員知るわけないでしょ。だから中には、知っている人もいるかもしれないから、そんなことは言いきれないと思う。だから、毎日会っている友達が、ひばりのすのことをうわさしていなかったから「たれもしらない」って思った。
最上：僕、歩さんの言うことと、ちょっと違うけど、色々友達はひばりのすのことをみつけっこしていたの。それが、いろんな場所が、話題になっていたけど、僕が今日初めて発見した、この水車小屋のわきの赤い屋根の見える麦畑のことだけは話題になっていなかったの。

里美：歩さんの場合、当たり前のことなの。

T：話題にしないから、別に知らないようなことは話題にしないよね。みんな。だけど、この人は一生懸命みつけっこしていたんだと。

美根：「僕なんか五つもみつけたんだぞ」

T：ここら辺の人(近くの五・六人の児童を指して)が、お友達だとするよ。

小池：「僕なんか 10cm に近い卵だったんだよ。」

美千代：「うそだろ！」

柳澤：「昨日だけで 20 個もみつけたぞ」

優子：えばっているんだよ。

T：(最上にむかって言う)「僕なんかこんな見つけれられないような所でみつけたぞ。」

最上：このすだけは(他の人は) みつけてないので、僕はピーンときて「ああ、これはおれが一番だー。」って思ったの。

T：ああピンと来て、このすだけは誰もうわさにしてないから、これは「僕だけが知っているんだ」と、ピンときたの。「たれも知らない」って言い切れる？

最上：うん。だから知らない。

T：おー。

下島：だけど、「みつけるぞ」というのに反対なんだけど、「みつけるぞ」と思っていて、みつけたのなら(うれしいのは) 当たり前じゃないの。ふとみつけた方が思いもよらないうれしさがあって、そっちの方がうれしいのじゃないかな。

T：先生もね。偶然みつけた方が、うれしいのか、「みつけるぞ」と思っていて、みつけた方が、うれしいのかは、言い切れない部分があると思うよ。

哲夫：でも～。

T：反対？ 先生に？

哲夫：先生に反対。「みつけるぞ」の意見だと思うけどね。3行に「まだ」と書いてあるでしょ。その「まだ」というのは、うんと前から友達とかみんなで、探しているんですよ。そして、今この僕が1番にみつけたんですよ。だからうれしいの。

T：哲夫君の言っているのは「まだ」というのは、時間があると言うの。だからその前に探していて、探していて、探していたんだけど～。

C：僕のみつけた場所のことは～。

T：まだまだ～。探していたからこそ、まだたれも知らないって分かると言っている。

最上：まだ、僕は言い切れると思うけど、みつけようと思っていたもので、2行に「みつけた」と書いてあるんだよ。

T：ああ「みつけた」と、いうのは「みつけるぞ」という感じ？

最上：うん。

彰子：「あった」とは違うよ。(だから「みつけるぞ」と思っていたという意見)

歩：「ふと」だったら「あった」と書く。

T：「ふと」だったら「あった」という感じだけど、「みつけた」というのは、うんと探しているような言葉だと言うのね。

謙児：それだし、僕ね「ふと」だったら「まだ」なんて付けないで、ただ「たれもしらない」だけでいいんじゃないかな。

T：ほー。

智弘：競争しているからこそ「知る」。

彰子：競争しているからこそ、僕が一等賞だということを知るんだ。

T：そうか、「まだたれもしらない」の「まだ」っていうの、どういうこと？

平原：今は知らないけど、後で知る。

T：～という事だね。だから、今に誰か知るんじゃないかなという、緊張感がある。だから、そういった意味で、探していたり、みつけれっこしていたりということは、ありうると思う。

16. 問題：言いたいか、 言いたくない(かくしたい) か

彰子：だからこそ、言いたくてたまんないんだよ。

T：おー、だからこそ1連は言いたいなの？

Cs：えー、違うよ。

最上：だからこそ、そんなにうれしいから、こりゃ僕のもんだって、

隠しちゃうんだ。

彰子：だから言いたいだよ。

T：ほ一、だから言いたくないのか？ 言いたいのか？

Cs：(口々に)：言いたい。

C：言いたくない。

C：言いたいんじゃないの。

C：言いたくない。

C：言いたい。

板書：対立問題

①言いたくない・隠したい。

(いじられる・宝物だから)

②言いたい。

17. 問題:「ひばりのすみつけた まだたれも知らないあそこだ」と、言うのと、「ひばりのすみつけたあそこだ」と言うのと、(つまり、3行目(「まだたれも知らない」を抜かしたのと、)どう違う？

T：ちょっと待って。「ひばりのすみつけた まだたれも知らないあそこだ」と、言うのと、「ひばりのすみつけた あそこだ」というのと、3行目(※「まだたれも知らない」)を抜かしたのと、どう違う？

歩：抜かさないと、もう、わくわくわくわくしてね。もう絶対言いたいという感じ。

T：ああ、入れた方が。ちょっと「隠したい」という人は、「言いたくない」ということ？

Cs：うん。

T：そう。言いたく無いという人は、どういう気持ちで言いたくないの？

真衣：何か胸の中にしまっておきたい。

里美：宝物にするの。

正和：僕、1番先にみつけたもので、秘密を知られたら困るの。

光：残酷な人に、とられていじられちゃうから、言いたく無いんじゃないの。

Cs：何をいじられちゃうの？

光：すの中に入っている卵や雛がとられてね。いじられちゃうから。

歩：みんなが言っているうれしさと、光君の言っているうれしさは、違うと思うけどね。だって、みんなのはね。「やったー。僕が、一番にみつけたんだぞ。」というような感じのうれしさなんだけどね。光君のは、すの中にある雛とか卵とかが、かわいいなーといううれしさだと思う。

T：(光のイメージについて)～ということまで考えちゃってる？

和樹：光君のは、変だと思うんだけど、1連には「す」って書いてあって、3連には「たまご」って書いてあるでしょ。ちゃんと区別して書いてあるんだから、光君のはおかしいと思う。

T：たまごの中身までいじられるなんて、心配しているのは、おかしいと思うというのね。

光：でもね。1行には「ひばりみつけた」でなくて、「ひばりのすみつけた」って、きちんと書いてあるのだから、「す」というのは、たまごやひなを含めて、「す」というのだから、僕の意見でいい。

孝弘：それだったら、8行にも「す」って書けばいいじゃないの？

勝：一行に「たまご」って書いてもいいよ。

T：「ひばりのたまごみつけた」あるいは、こっちも「ちいさいひばりのすがあった」とか書けばいいのに、ちゃんと区別してあると言うのね。

光：でも、1連もたまごのこと言っているんだけど、3連と1連のたまごの意味は、違うんだよ。

Cs：えー、どういう意味なの？

彰子：私は3連と1連の卵の意味は違うと、言っていると思うけど、1行は「す」の入れ物ということをお願いくて。

T：入れ物をみつけたということ？

彰子：8行は中身のことを言いたくて、ちゃんと区別してあるよ。

正和：1連の「ひばりのす/みつけた」というのはね、「みつけた」というのは、「ひばりのすみつけた」と1行につなげて書いてないでしょ。

T：「ひばりのす」って書いて、行を違えて、「みつけた」って、こうに別々に書いてある。

正和：だから、うんとうれしいような気がするから、そんなからっぽのすをみつけただけで。うれしいなんてありえない。

T：先生も、光君が言っていたけど、「す」って書いてあるからには、こんな空のすをね、ころころころがっているのを見つけたって、うれしいなんてこと、無いでしょ。「おお すがあった」なんて、風にとばされて来たのを見つけてうれしいと思わない。だから「す」というのは、何をする所？

C：卵が産まれる。

T：卵が産まれたり(C：ひな)ひなが育ったりするから、「巣」を見つけるということは、そういうことも含めて「す」って言っていると思うの。ただし、光君が言うように、やっぱり卵は卵でも1連と3連の卵の意味は違うと思うの。中身の卵や雛のことを考えて、いじられるとかいうところまで言っていないと思うけど、ただこの違いは3連の所をやった時に分かると思うから置いといて下さい。

C：はい。

T：そうすると、とにかく「ひばりのすみつけた」という時のうれしさからいうと、隠しておきたいのか、言いたいのか、決定的な証拠ない？

大場：言いたくないに、反対なんだけど、最初から言いたくないという気持ちが変わらないんだったら、3行にも「まだたれにもいわない」って書けばいいんじゃないかな。

注記・ 宮坂義彦

※『事実と創造』2014年6月号より引用